

高麗人  
湯流傳集  
四

443



當流茶之湯流傳集卷之四月録

三魚大頭猪子共換決庭之大燗

月以猪子客入之次也

月炭の付金も席之能付此燗

月茶もあの時客え能付の燗

月盃點もあのを燗

三魚大逆猪子盃點もあ

四魚半頭猪子之大燗

五魚半あ入此次也

月袋桶三節茶碗之燗

六魚半頭猪子之大燗



月客振の智

所成之學

門數身之量客付之男此痛

所成之作法十七个条之略

河家集上流茶之下河家之湯之次也

江戸数寄屋の大碁客付の習

竹号湯の極子三ヶ条之智

此ノ茶の味ハ  
 付七拾ヶ条之旨

許之大事十七ヶ条之目錄

不可之大事止八ヶ条之目錄

當流茶之湯流傳集之四

三疊大魚點之能成

一 孟點と云ハ常之茶入（茶入）にす。物少し。唐物。

茶入り茶湯り古<sup>ユセト</sup>戸<sup>ト</sup>りけ分血工家<sup>カ</sup>を又た

と新土の茶入じり主人より拝見す道矣

必ひろふの時 魚點かすゝと云傳テニふと傷ホウ字

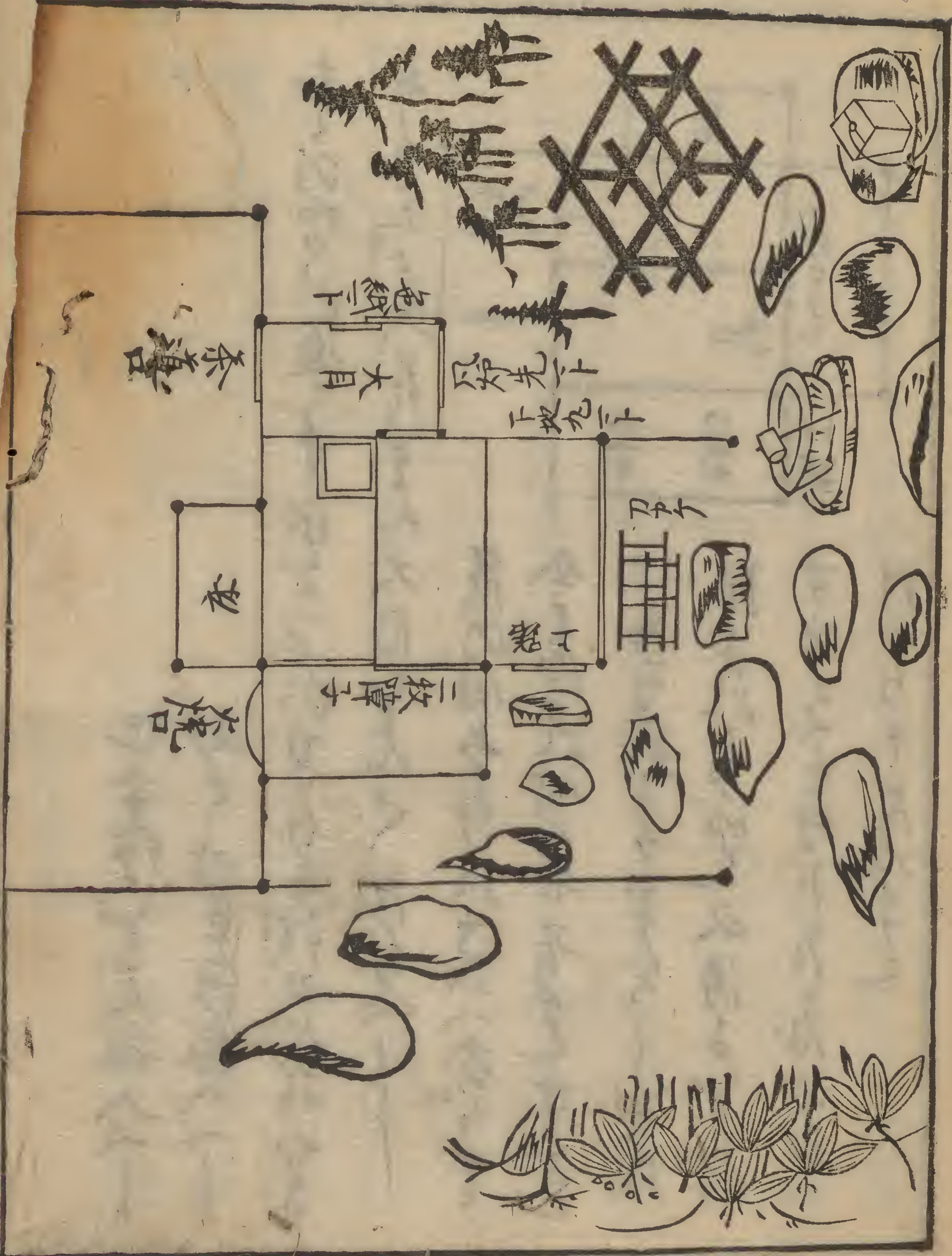
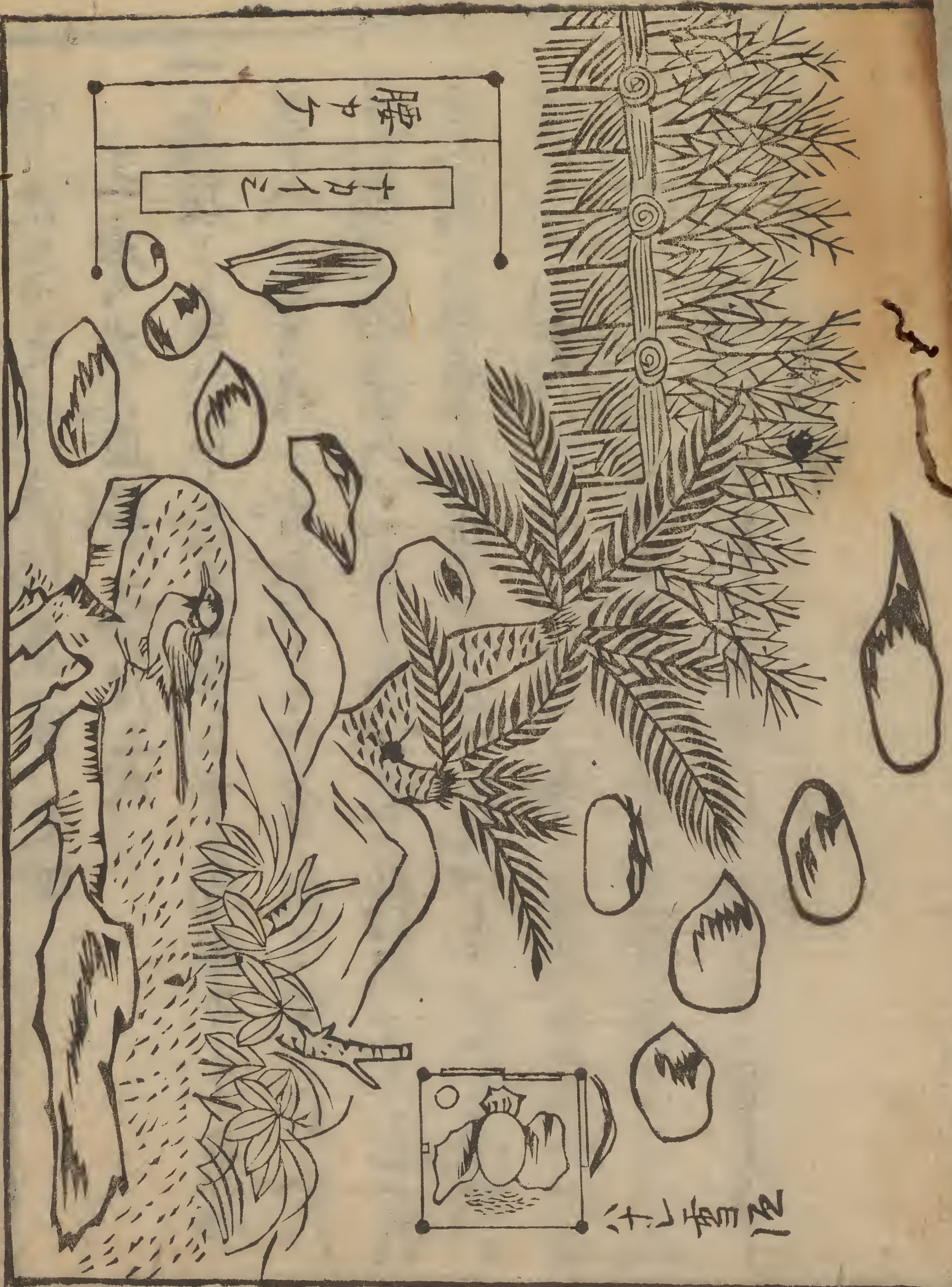
中じうけし<sup>ハナ</sup>不<sup>ハナ</sup>あ<sup>ハナ</sup>り<sup>ハナ</sup>益<sup>ハナ</sup>し<sup>ハナ</sup>店<sup>ハナ</sup>物<sup>ハナ</sup>色<sup>ハナ</sup>バ<sup>ハナ</sup>相<sup>ハナ</sup>合<sup>ハナ</sup>

所<sup>に</sup>あ<sup>る</sup>じ<sup>や</sup>う<sup>は</sup>建<sup>つ</sup>て<sup>は</sup>黒<sup>く</sup>なり<sup>て</sup>く<sup>る</sup>を<sup>は</sup>朱<sup>しよ</sup>の<sup>しよ</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>べ</sup>し

茶入と爲るこ又ねのまふて云やうと大事なる

啟  
子  
記

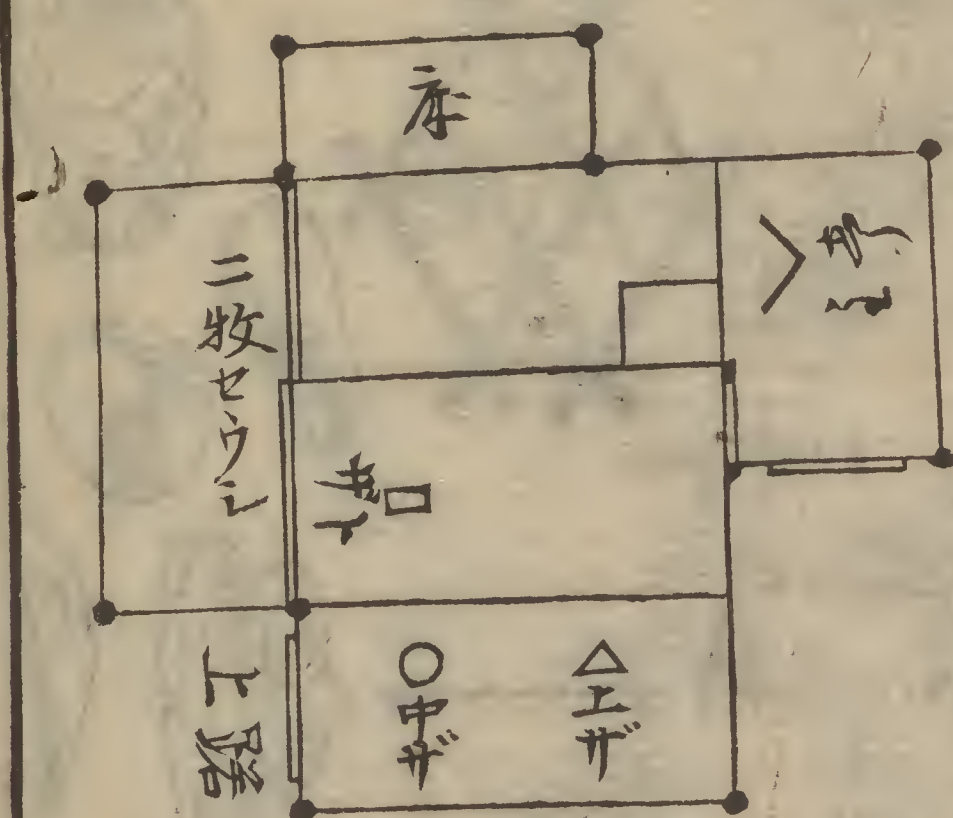






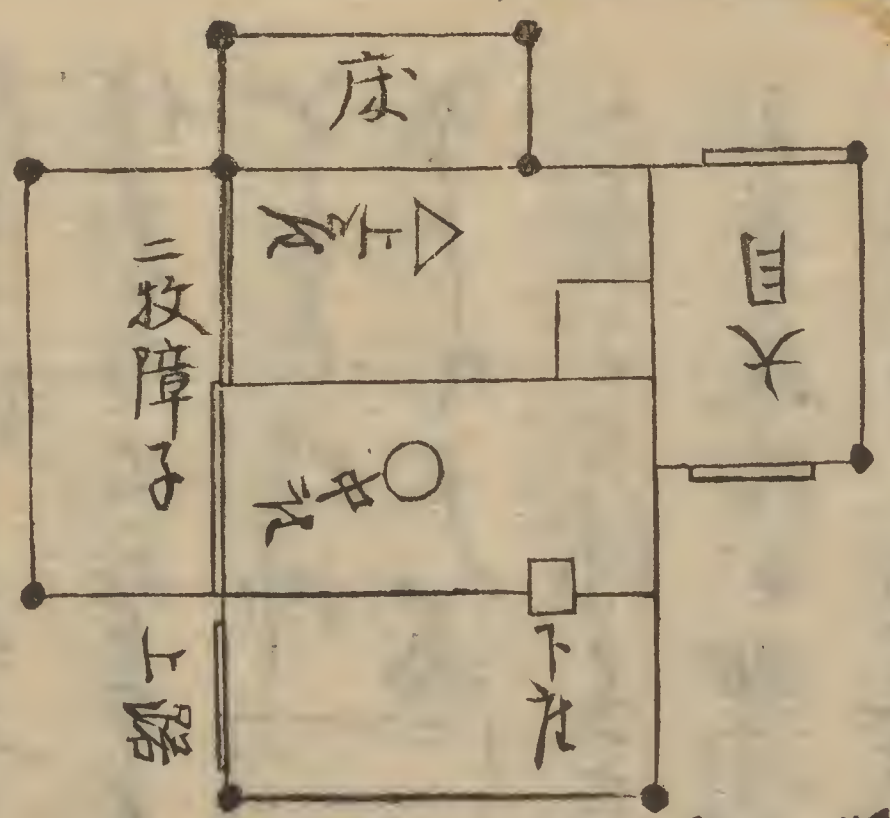
客入之者。

一、大足庵の門より入るまで書信と見ぬ入る  
腰に付合ひ亭主迎ふまで時を待たぬ入る  
おのり此通し手紙をついて口々に注<sup>ユキ</sup>力振る  
あの上へ入るなど大目と云くは付る



炭の時を炉にすゝへ（おろし）  
今席に時をせりてすゝへ  
けな付あつた事か——二夜  
障子に角のこ又障子とよひ  
すまゝとすゝへた床のかへ  
けなりそ尾にすゝへ

一今席ヒキをくも水は立ちうけよ  
いづれに花より



如お踊るゝ入ーとなへ  
 向ひくけ物とんく大目付柳  
 茶しりあんかうーぬすびぢ  
 社とて中なトなんく  
 そこくしちな灯きハ一あは  
 ひるちるゝ主屋れけとあひ  
 夢のあくのゆづよからる事可ー茶入とあ  
 一あゝとぬとも茶杓、流ともとーと  
 の時帛しふしがあゝいなる



三多く大盛置此方

一 煎茶中三杯上茶あり茶めはけんとけり

物よりいとお入るゝとあら

けり時大の茶を茶に日

ととき<sup>セキ</sup>噴<sup>フ</sup>出

あてて戸を

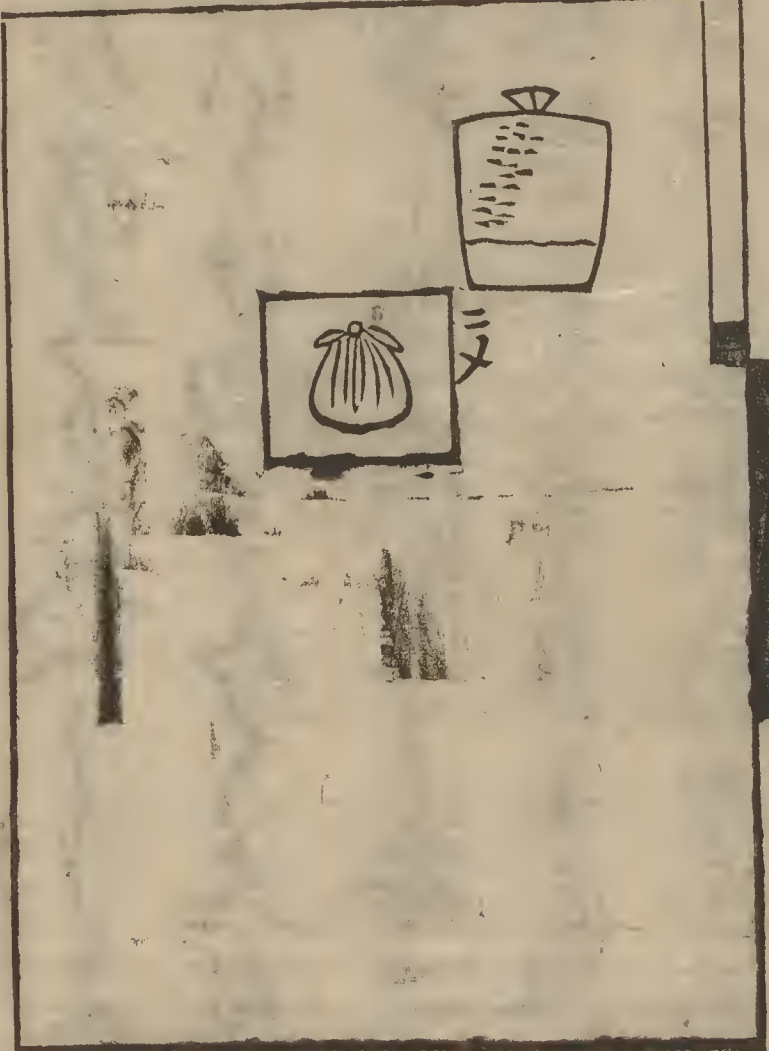
人茶よ二杯と云

よ茶碗持か此方

半に上よ茶器

了水盃反江戸たく竹俵にがしけり

けり此方けり此方茶入右に石よりト云



あまし緒ととき中へ取たのち茶入とれ  
半一右茶碗とあてけのちへとり茶碗ハ中  
けの釘めけ<sup>クギ</sup>揺り  
帛<sup>フナ</sup>取<sup>ハ</sup>一たる直と

かあへり

向り三つ<sup>フキ</sup>悦

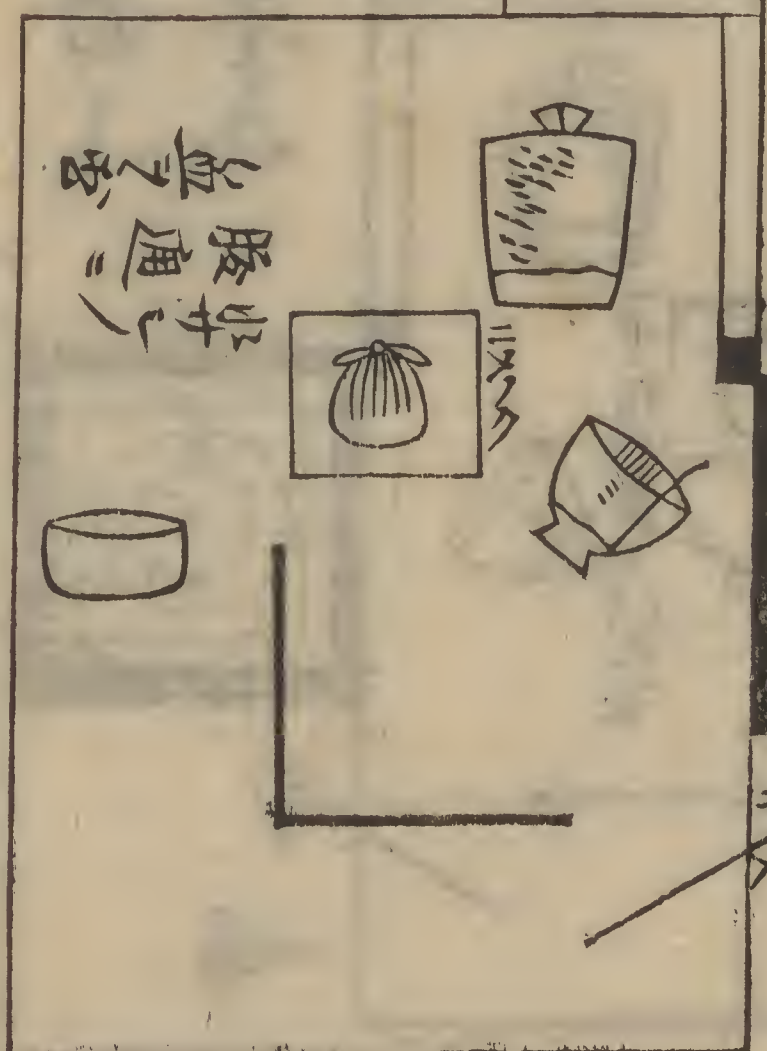
巾の面とる悦切

あまし<sup>ロク</sup>緑<sup>ニ</sup>高れ通

め茶又帛と改た

テ先と茶入と巾の帛ハ懐中して右に直のま

中へちるは茶入と巾の帛ハ懐中して右に直のま





巾の茶入茶入の方立は魚のお解お解あず茶をさ  
すくさすく如きおすいすいのふくは玉帛いし水垢の蓋

の上巾いたへミツサミ一右に

茶巾ミツサミのふく玉茶碗

の向とあく川

と一その口

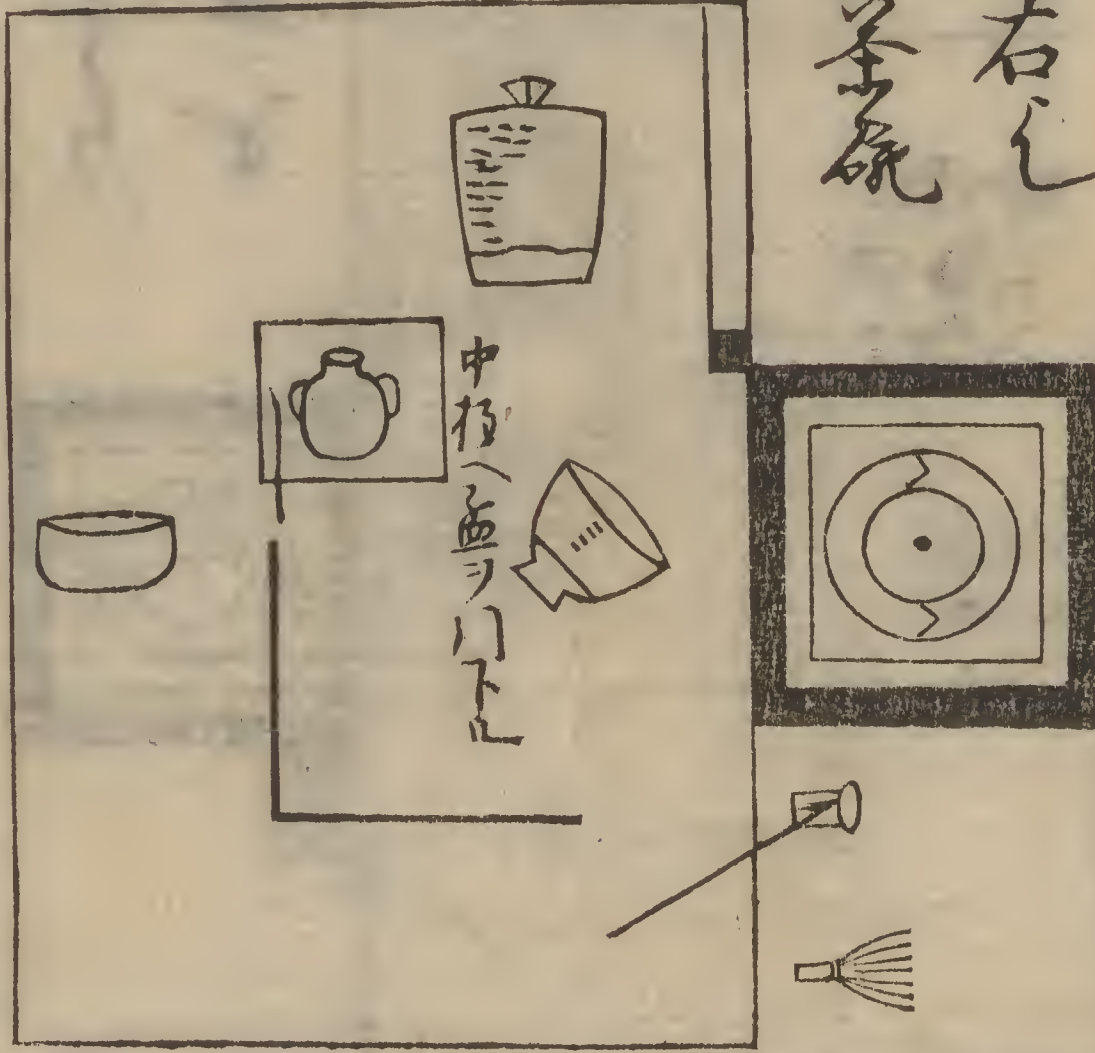
おくくいしを

あそりの蓋取湯二

入物移たへ二湯をれ

蓋しあ茶を取湯次二つと二又ふたれおたへ

茶巾取茶碗二湯すく茶碗巾いト玉茶巾



湯カキ子と右に茶入取蓋取魚のふ中へ玉  
先定と云明りあそりあ茶移取茶を能程  
よ入るさよあそりあ

云明りあそりあ

何り茶移取茶

碗か玉口より

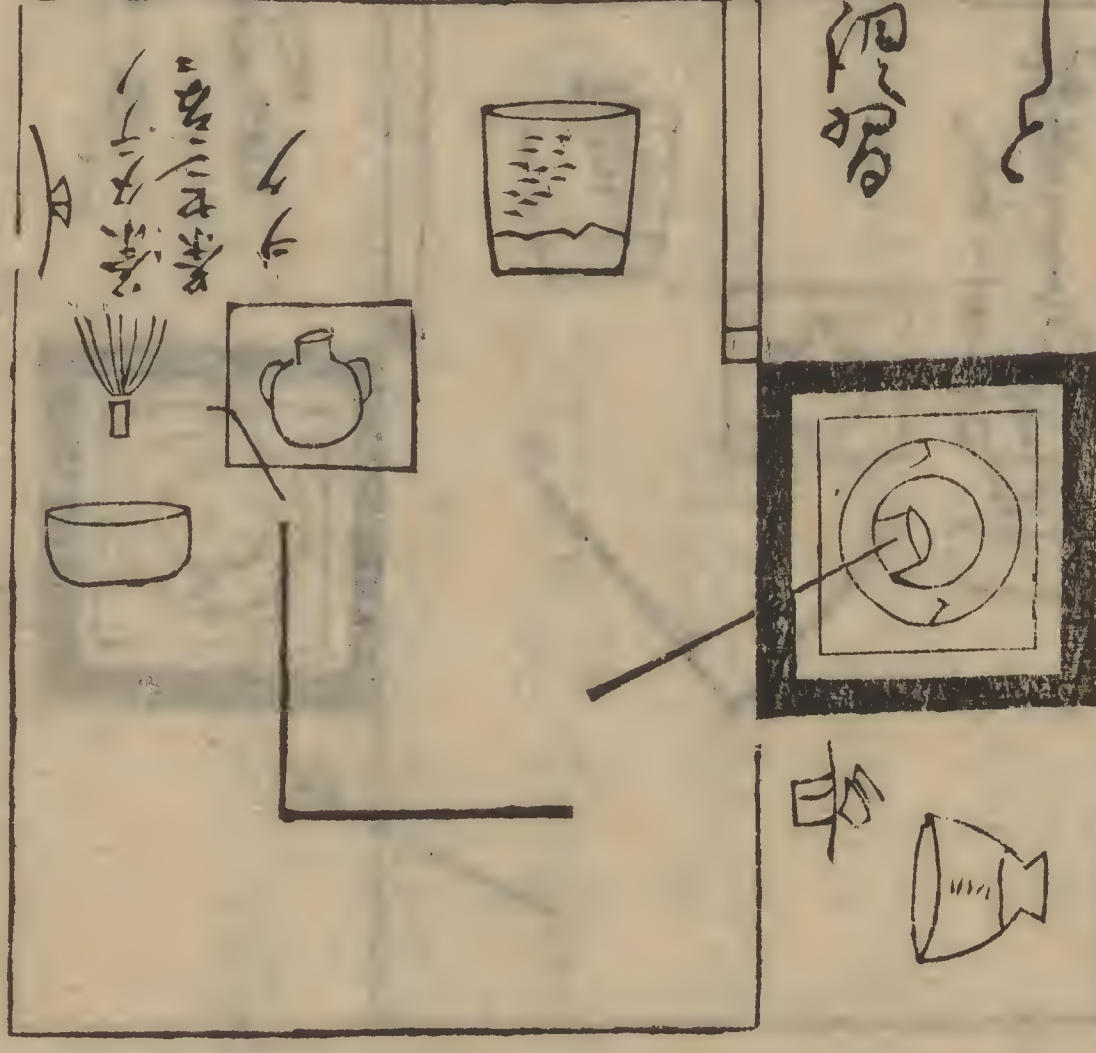
巾い蓋とあそり

右ら魚玉茶移

あそり茶移

ハ諸入湯移はくか入茶を取あそりあ茶を

と湯移のふく玉茶のふく一居あり帛取あ





帛解之蓋蛋丸也

卷之五 茶巾上源子

蓋五柳居士

水

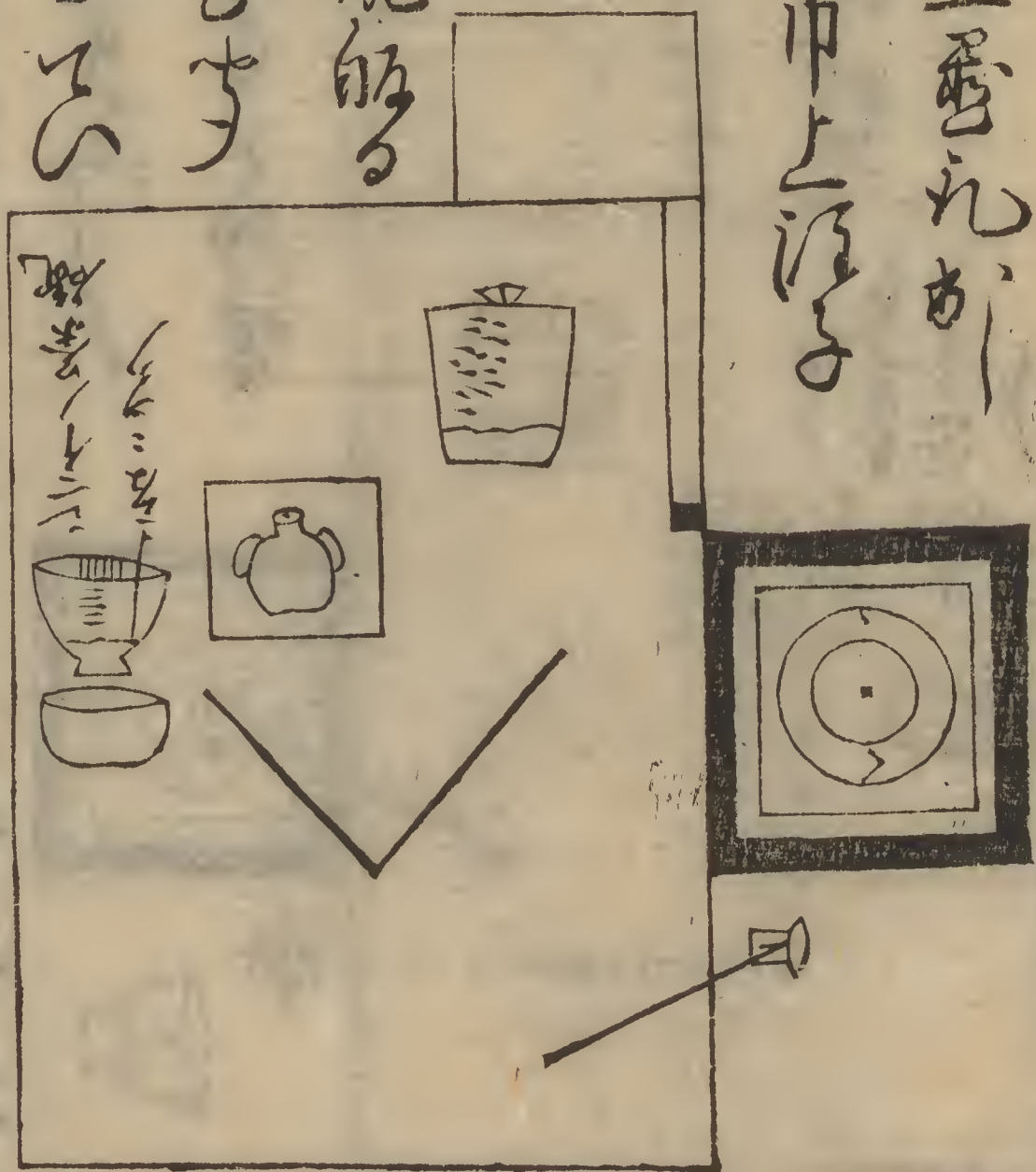
ト、盃と茶碗の

ゆきとる 告子す

下  
部  
と  
礼  
を  
と

と徳礼をするを好むを志すにあらざるや

金點ふくうと云事



ちまう 仕合より水場の蓋とする時茶入は  
 一の如き意にたる時茶入一壺より目ら親常此  
 茶入ひげのちまうは氏蓋點ハひげのちまう  
 一の如き茶入巾ひおとあらうむいぐり時  
 一夜後より一壺一壺とて茶入は氏蓋  
 一の如き同ちまう常の印記はわらう中か  
 魚ハ巾ひおとより茶入はわらう時茶入一壺  
 一の如き親常より茶入はわらう時茶入一壺  
 一の如き茶入はわらう時茶入一壺

考振と  
のる中  
の  
入之  
野  
重  
氏  
必  
之

四  
六  
七  
八  
九  
十



卷之六

いざぬかり半

字也と云ふ所の

脛之之如  
 痛之之如

水鏡の上巻

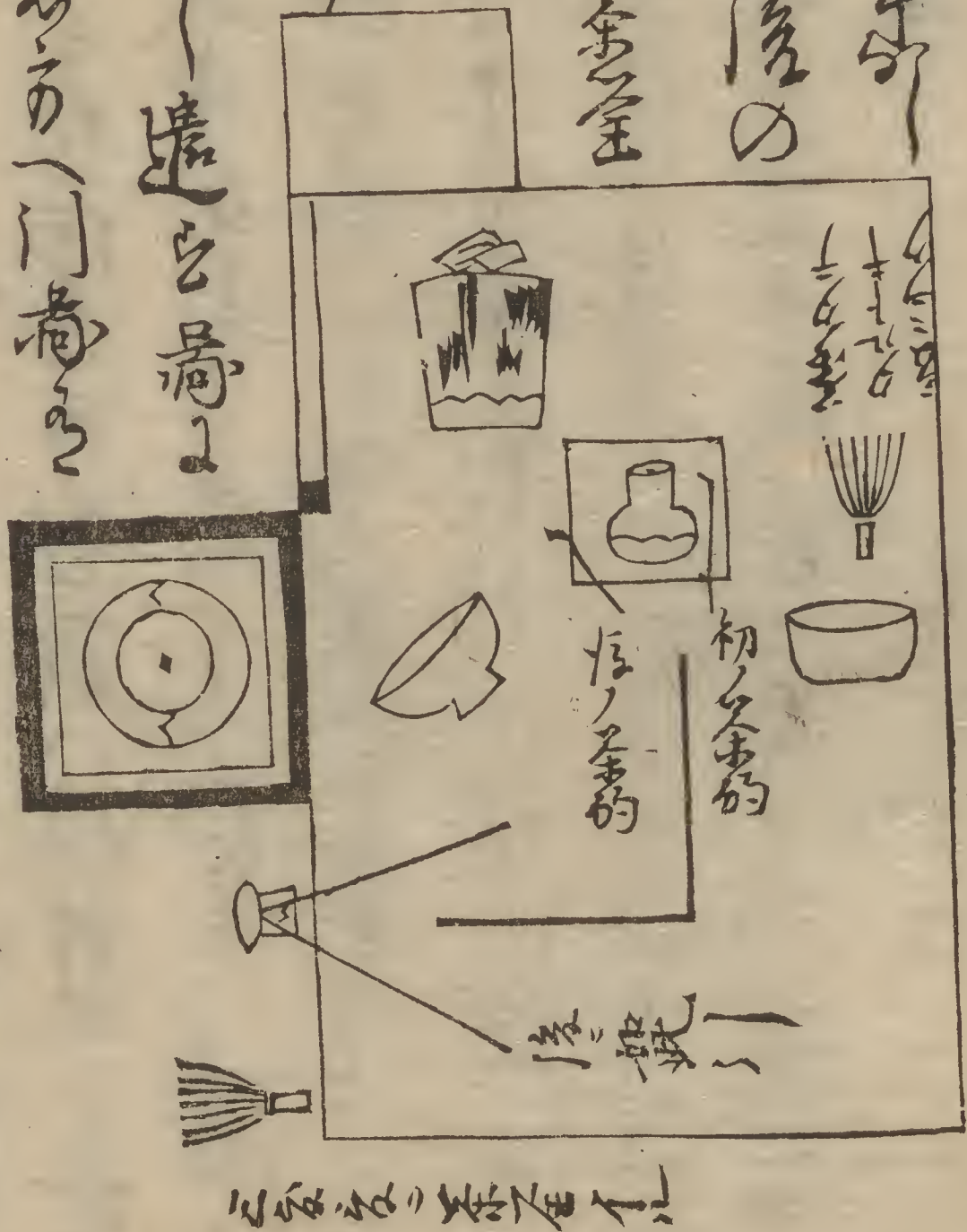
時右ノ河ノ五ノ

仁危一死一逃一病

ひきの川原 あり 門あり

水務此蓋  
とす所  
不  
た  
多  
一  
と  
五  
と

一、中年魚之茶之玉之蓋之通之玉



一、五、七之魚點ハ、糸卷の垂下中程の外へ、墨こ

一、ルイ半極物之類の孟點極へと垂水筋ノ脈通し

二凡炒之孟たぐと蓋釜の蓋不中程の外に蓋を

右何と多と點之ハ水盈此上ニ多と垂丸右に同

一、フクダ 中々半ツク 務ツク 子ツク 袋ツク 柳ツク 袋ツク 茶ツク 碗ツク 之ツク 茶ツク 之ツク 湯ツク

一袋茶碗と云六井戸に云云八仔細保五煮云ん

竹本子やどのう糸糸碗いちけ道ハ市糸碗よハ

あふぐ 又リを焼くハ古御座<sup>フルカラツ</sup>古座<sup>フル</sup>庫<sup>ン</sup>ち色<sup>ル</sup>ハ用<sup>ル</sup>多<sup>ル</sup>

一帝初、紹臨<sup>セウラフ</sup>之作也。乃擢<sup>ニ</sup>千八百<sup>ニ</sup>帝<sup>ニ</sup>、何名<sup>ニ</sup>多<sup>ニ</sup>逆<sup>ニ</sup>接<sup>ニ</sup>。

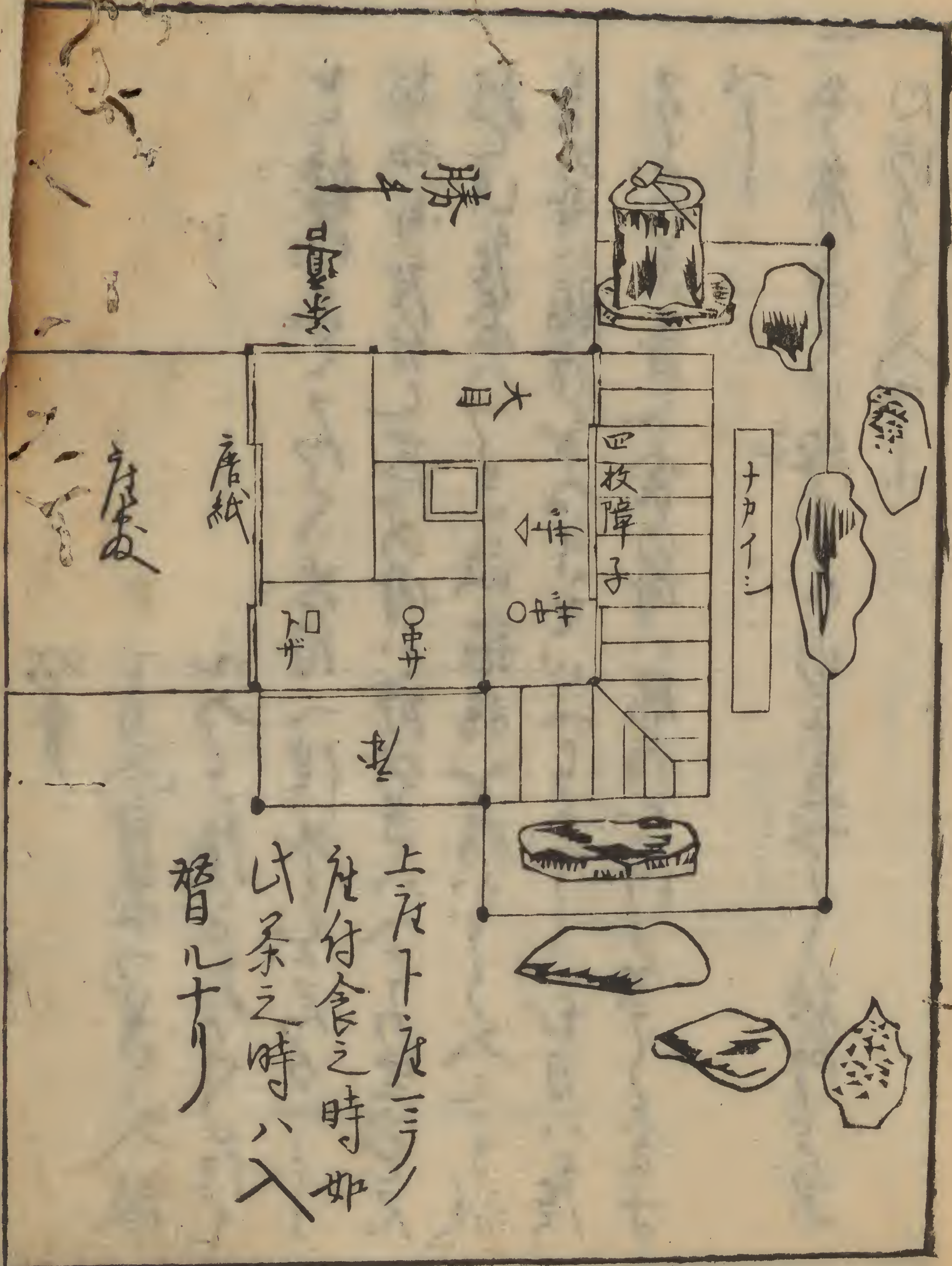
世に於ては、  
世の付く事、  
表は、  
ウラヲモテ  
なりきりて、  
故に

のまをほとあのもく付一ふハ事とてゆふ





山崎



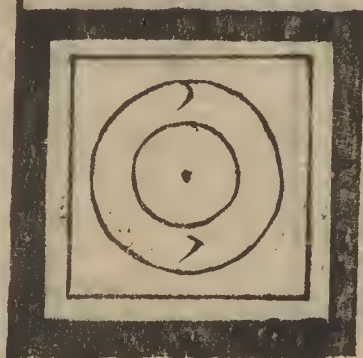

上  
下  
中  
付  
食  
之  
時  
如  
以  
茶  
之  
時  
八  
替  
几  
十  
リ

九

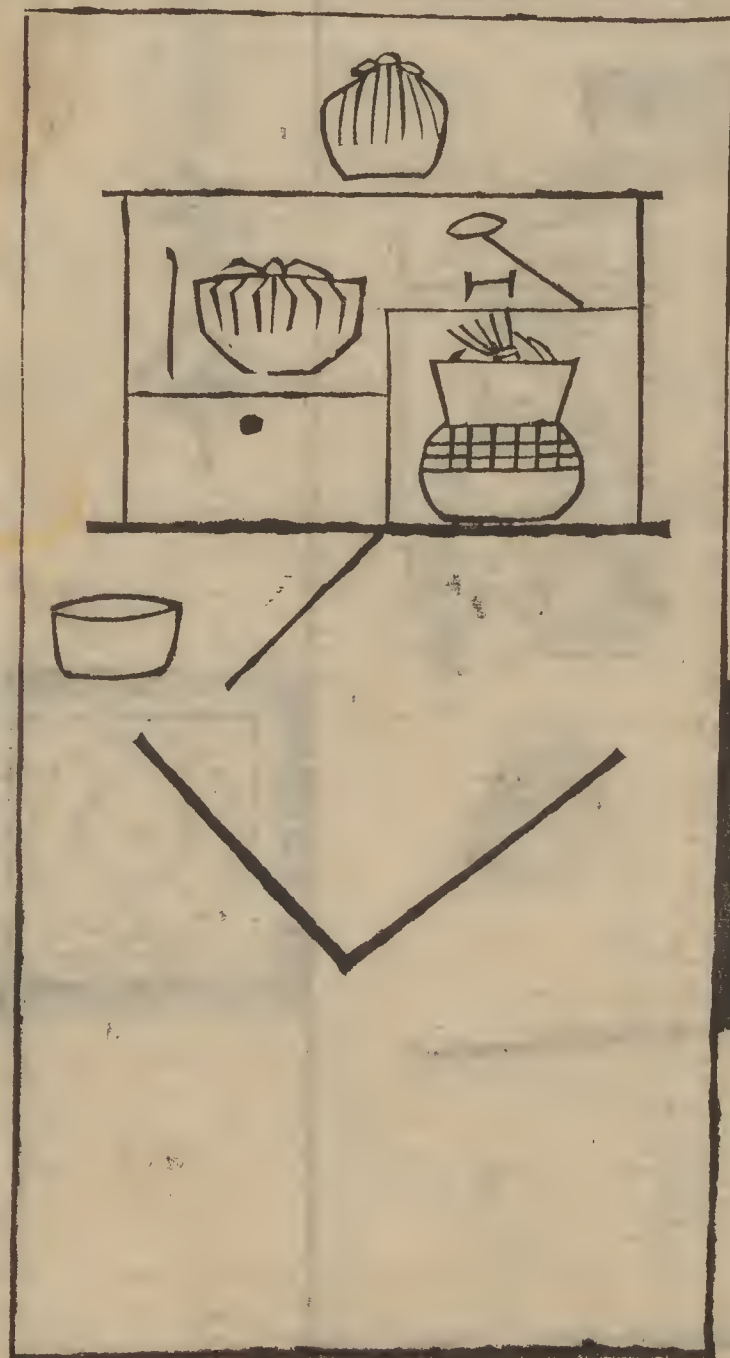


一 今席をくハ縁エはよ水ミを立タてて一 能ノ付ツる梨  
 心ココロりく入イるべし

一客中立の心は柳楊文ありあつてあへて  
モチロ 勿論なの花をえ入  
 然るからりあへて



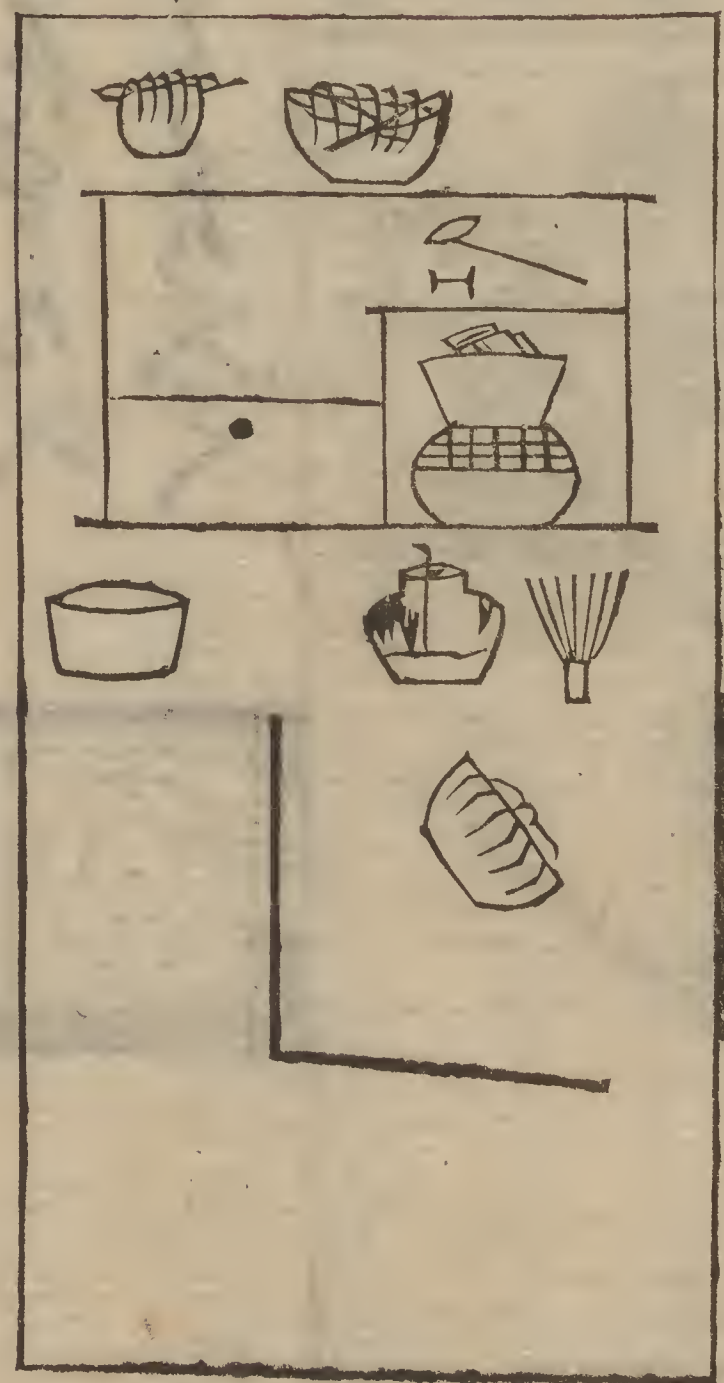
唐廷万帛  
腰之之茶  
道是明茶  
工反中規  
先柳工因

[illegible]



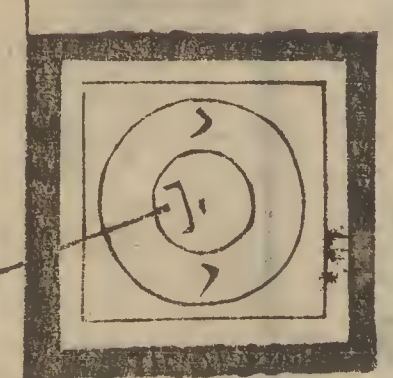
上茶入を水筒の茶へおろしより茶箱にて  
 茶箱の時とて茶入を  
 多く茶箱に茶入を  
 初上茶入を茶入

ひさ高茶入  
 改茶酌取  
 中ひけ茶  
 茶取りへ吊  
 茶よりへてお

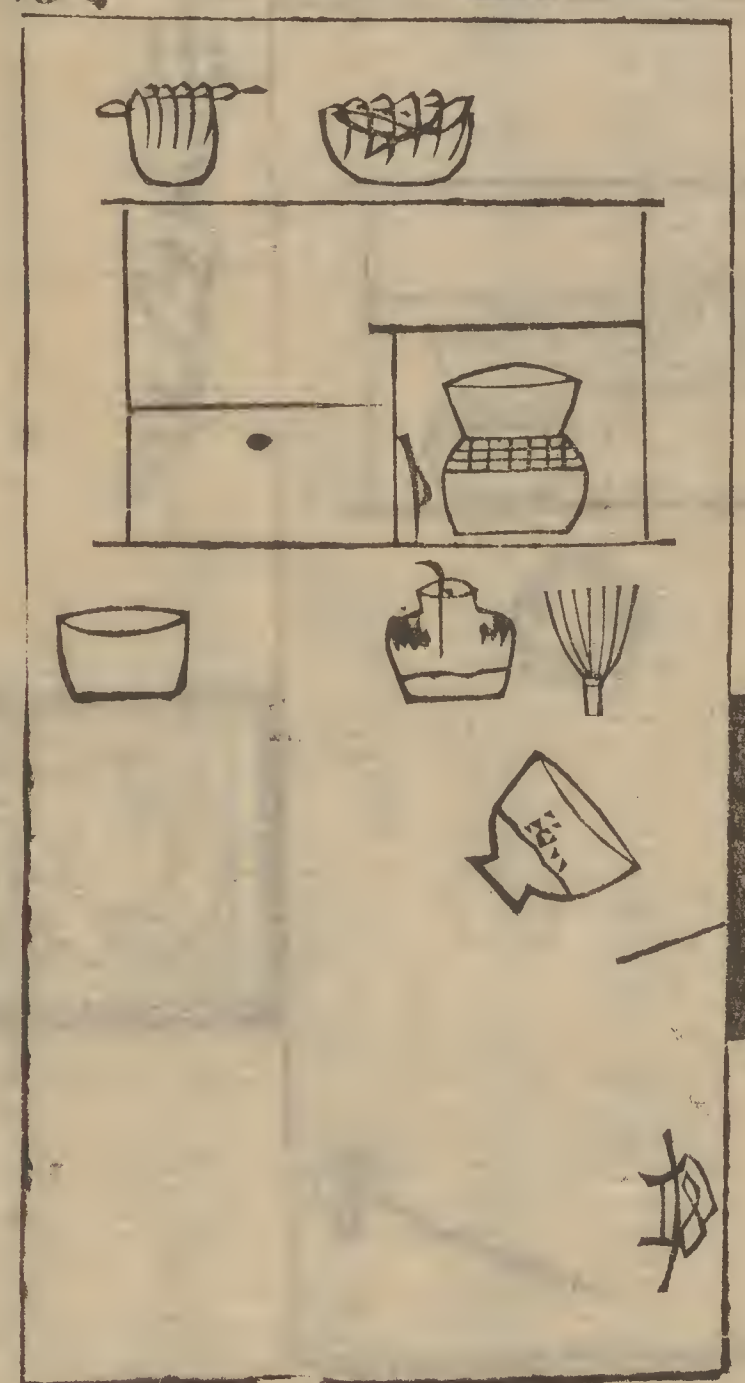


中茶碗下へた上よりお茶(右へ中此結め  
 くりよりより茶をよへて茶二つより割向へり

とおひる茶箱の中へ茶茶碗と茶箱と茶箱へ茶箱  
 へ上へ茶箱と茶箱へ茶箱  
 吊及中へ茶の蓋及吊  
 ハ腰よりへてひきと茶



二茶入へて  
 蓋と茶箱蓋  
 茶より茶茶  
 茶湯次へて  
 ト茶茶茶茶



茶箱よりへて茶箱へ茶箱へ茶箱へ茶箱  
 茶箱へ茶箱へ茶箱へ茶箱へ茶箱



卷之五

水指の蓋及水を注ぐ

茶碗

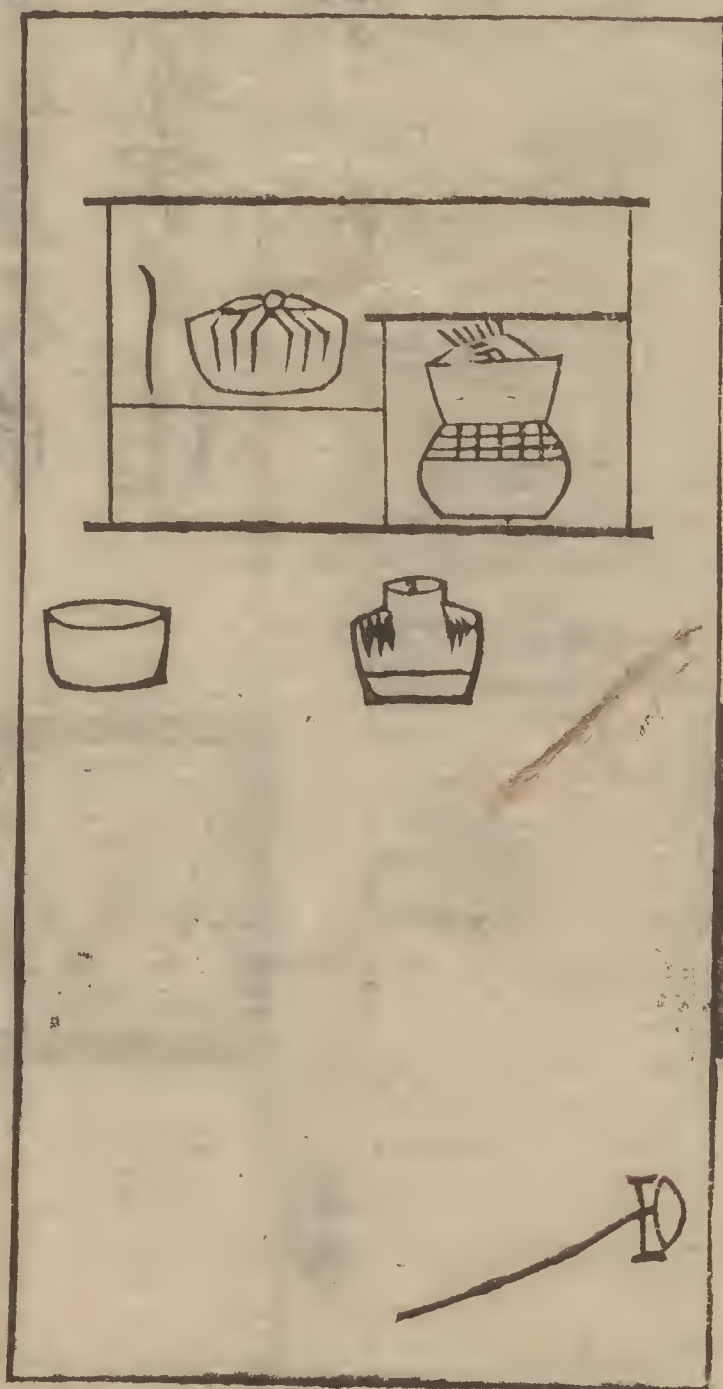
明正兄弟

下金

七  
禮部

と徳礼と

湯をいれずぎすくねのすぎの湯をいれあふ  
るふれ如く湯へ入れ扱へとより由視ていふ先程



とふ烟法傳石けりしと云ふと云ふ

是非と何處を極めざる又湯一ひを入

茶至寸茶巾茶碗丸湯すく四外

くゆき下は玉糸をばうきとるの

此上へ何げ儘と書く中じ茶碗と入下

色  
 緒と  
 傍より  
 いし  
 び  
 極よ  
 男  
 緒い  
 甘

結ひ之に  
 結ひ封付  
 結ひ上  
 倫  
 結ひと

く不<sub>レ</sub>口<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>仁<sub>レ</sub>孝<sub>レ</sub>碗<sub>レ</sub>極<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>初<sub>レ</sub>基<sub>レ</sub>的

ひもとるひく石上水一掬移入湯内

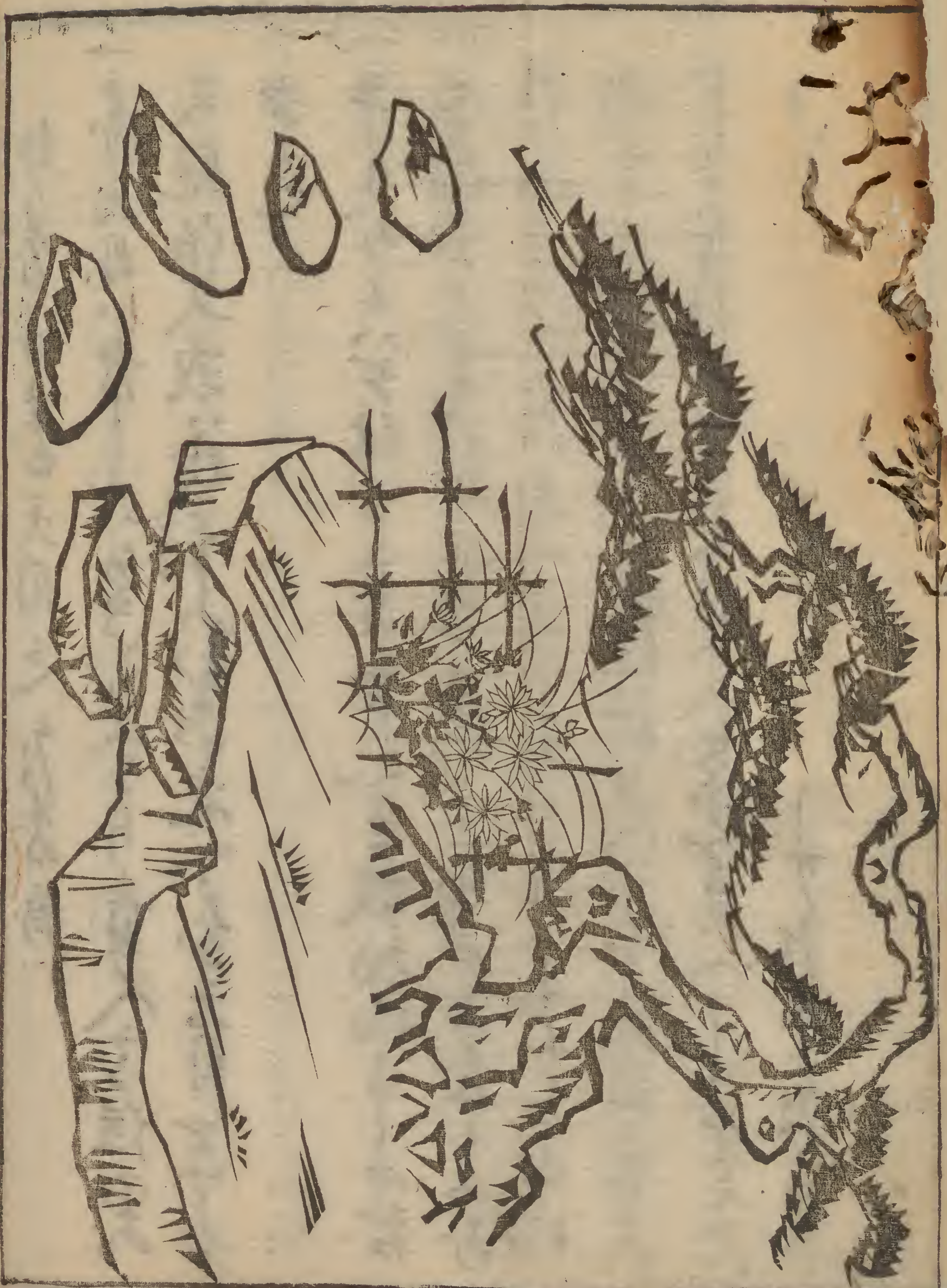
その蓋を中玉にするに扱抄蓋

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

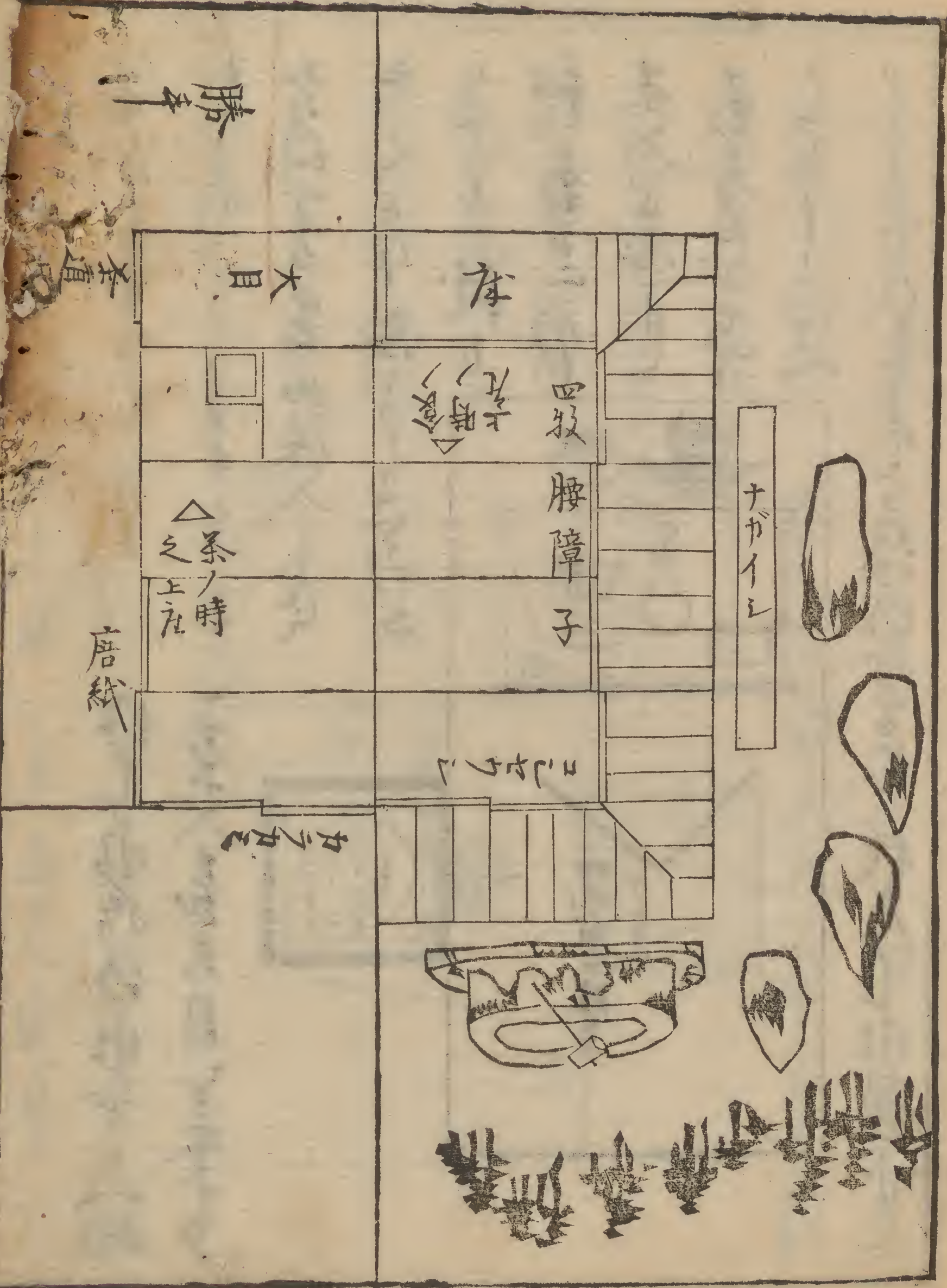








三  
年  
三

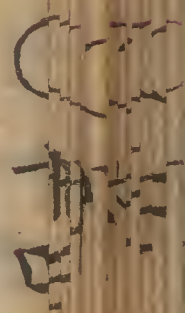


〇  
十  
四



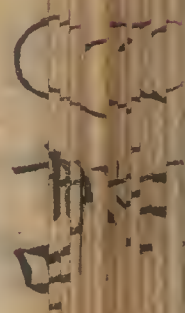
卷之四

卷之四

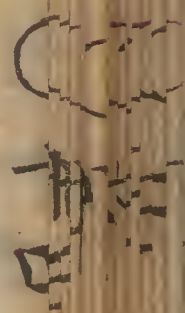


卷之四

卷之四



卷之四

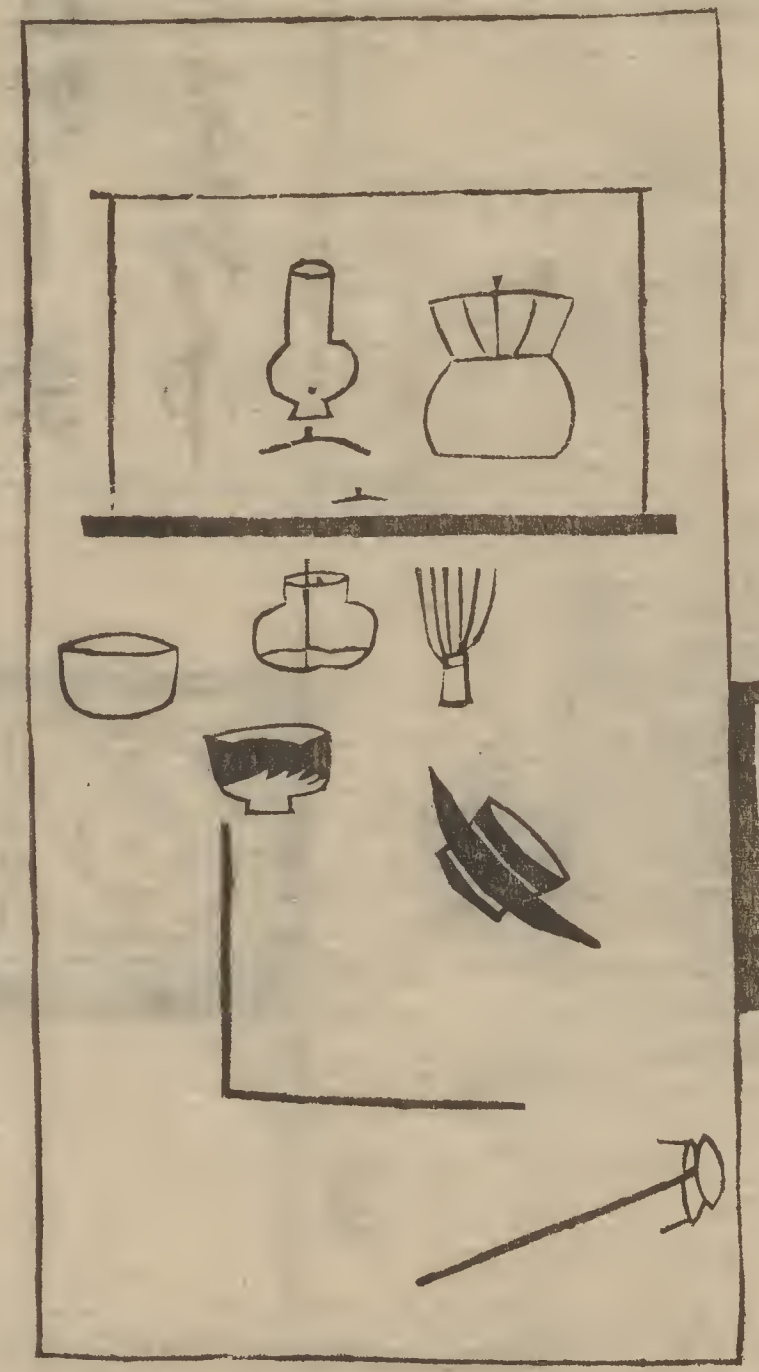


卷之四



茶を盃に盛り茶杓二枚より湯をくみけりて  
 よりけりて茶杓より湯をくみけりてすくみけりて  
 茶杓より湯をくみけりてすくみけりて

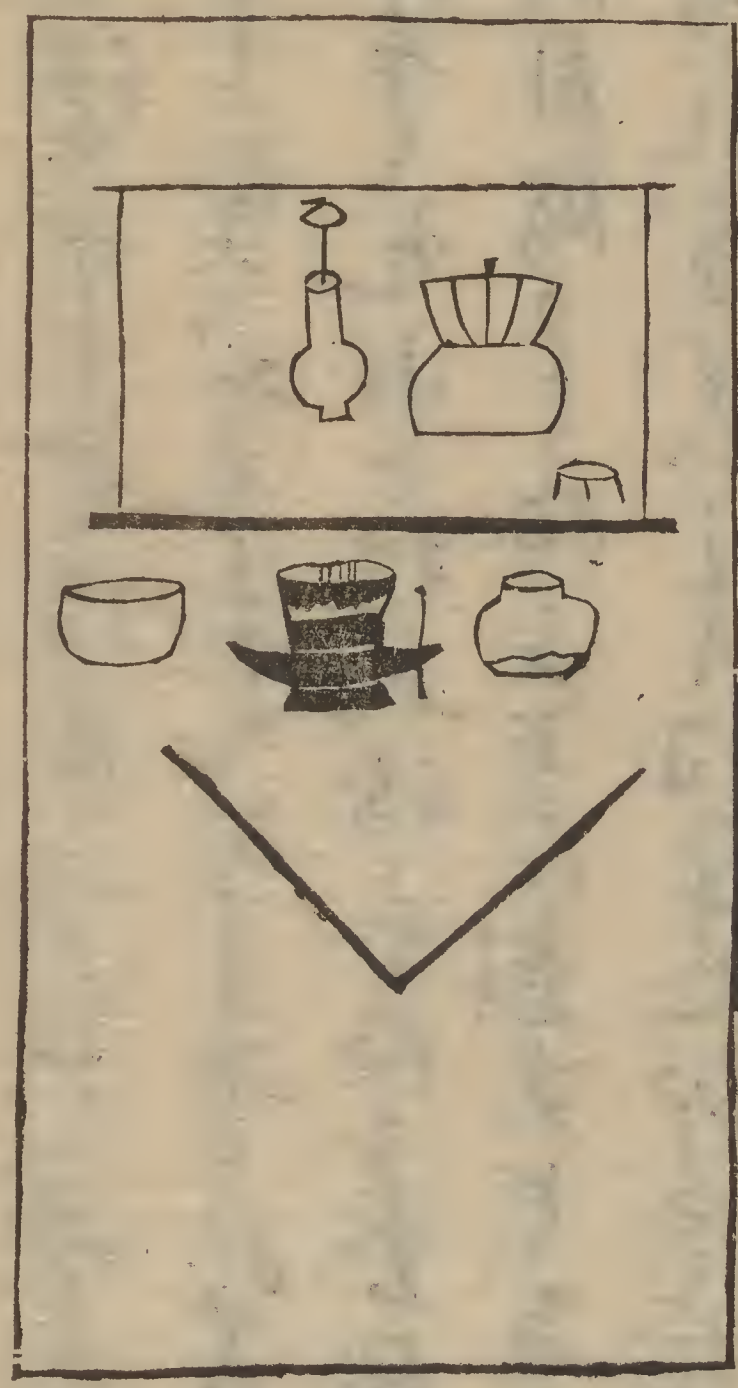
ひききききき  
 けりききき  
 天月の井へ入  
 中へ中しこ  
 湯次りて如



茶膳のよりきききききききききききき  
 づきききききききききききききききき

茶杓より湯をくみけりてすくみけりて  
 次二つりて茶杓より湯をくみけりて  
 茶杓より湯をくみけりてすくみけりて

茶杓より湯をくみけりてすくみけりて  
 茶杓より湯をくみけりてすくみけりて



茶杓より湯をくみけりてすくみけりて  
 茶杓より湯をくみけりてすくみけりて



茶釜取入茶杓取巾い茶の羽は茶杓取入  
たのふへおし茶釜天目ありし持あはみなり  
物移れ水二つ入り蓋あらけくやう等に持て居  
たり水柄れさするじきこれ物移まに候し  
蓋垂せあるより時よか茶入と云えし如常も  
かゝる事ありそ入れおしく之は一つある  
事有りける事あり又爲茶入と云ふ紙掛は爲  
茶と書つるものなりそ尾に傍べり  
一ち瓶ハ茶を所す此天目茶瓶の時ハ蓋に向ひ右  
へハ左月と銘たし蓋と指が川とせ銘とつけ  
くそぎこちまち川とく一口のてきを八枚くら











お参り入る入内付すじと茶道口此やとの礼  
と茶道而所禮中よりを付主人御言察と慈にお  
勝もへ入候と御お如常居するに番は及候は御  
ハ候とふ取内くくとするりおとすはとと香お  
門とくおとよりこそへ水と持ト候へ向ひ門膳  
二重とくくく一重由は御付通口<sup>カヨ</sup>の門膳持  
事考と門お伴はハ早き膳とすゆりそけの通ハ  
く小姓を教くお伴よりていものすゆりくくを  
えハく小姓を教事とけり極く清くと門内より  
まけりていもの上門直とト事とそ作法は幾  
方の法にけりきとトけりけりていものすゆり

く相伴は諸夏とくくくく一のけりけり膳す  
むと進付茶菓子より縁高<sup>ツチタカ</sup>は本奥ハすくく  
くくお付へハくくのちいけりけり餅菓子  
の類とよりを併主人の教考め候べしお所  
は水より立おと教考め候くくくく花とてバ  
くけりけり茶菓子とて進付するくくくくお  
お茶とけりく物とて門威とけり教考め候大  
礼とて進付とより自然と茶入<sup>サカモウ</sup>お持人茶と  
ねは高きとくくく茶とよりくくくくお付先  
茶道口との禮而門茶ははくくくく向ひ  
お参り入る入内付すじと茶道口此やとの礼



卷之五

と竹のちきり

五

什五へ

けりとおちていへともやうなうへなる

一、一の氣をとり

ク  
ハ

孟點

七



一茶を湯に数滴しききし人にか大分候し菓子  
に濃茶よりけりハ茶天目の盆點に似せし様  
此本盆と用べし

一門膳よりあし門膳中冠書れ元とそ人あ何  
と冷せしけりしこあ人あてバねし

一門茶へ茶を入りけり門膳中冠書れ元とそ人あ何  
あ何とそ冠書の封をのあこむ門付を人あて

一水と改めりしすこも改め候ハ方々此法也と  
しと連し門付を人あて冠書一人門茶連を人あ

一と人をも改めべし門膳よりあし門膳中冠書れ元とそ人あ何  
と冷せしけりしこあ人あてバねし

一門茶へ茶を入りけり門膳中冠書れ元とそ人あ何  
あ何とそ冠書の封をのあこむ門付を人あて

一水と改めりしすこも改め候ハ方々此法也と  
しと連し門付を人あて冠書一人門茶連を人あ

一と人をも改めべし門膳よりあし門膳中冠書れ元とそ人あ何  
と冷せしけりしこあ人あてバねし

一門茶へ茶を入りけり門膳中冠書れ元とそ人あ何  
あ何とそ冠書の封をのあこむ門付を人あて

一水と改めりしすこも改め候ハ方々此法也と  
しと連し門付を人あて冠書一人門茶連を人あ

一と人をも改めべし門膳よりあし門膳中冠書れ元とそ人あ何  
と冷せしけりしこあ人あてバねし



一 かくるがたき... ありき... ありき... ありき...  
しを門月付に封とれし

一 手かたけ... 門月付と... 封と改を  
ある... 照れけ... あり... 可き... あり... 付  
あり... 門月付と... 封と改を  
月迫... 毒味... あり... 改也

一 あり... 改り... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり... あり...

あり... あり... あり...

一 あり... あり... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり... あり...



一 此の世に今殊に人々を驚かす事あり  
一 時すべし物を知る人の相口をあらぬ  
一 門横垣に人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 門横垣より人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 役人より外に人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 一と云ふは流し親  
一 一人より入る世に人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 半より入り又一人より入る世に人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 する事こそ世に人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 右大藏に人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 する事こそ世に人あはれしは門立と無きと此の世に

御はまゐるよと云ふと此の世に人あはれしは門立と無きと此の世に

一 一と云ふは流し親  
一 一人より入る世に人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 半より入り又一人より入る世に人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 する事こそ世に人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 右大藏に人あはれしは門立と無きと此の世に  
一 する事こそ世に人あはれしは門立と無きと此の世に



此の如く申すに、入道は、候す。是の如く申すに、  
 多く戸と申すに、入道と申すに、  
 此下は、御所を、おき、け、  
 之を、おき、け、  
 と、候す。する、ある、  
 目、は、御所と、  
 一と、候す。入道と、  
 しか、  
 相、  
 勝、  
 お、

七五



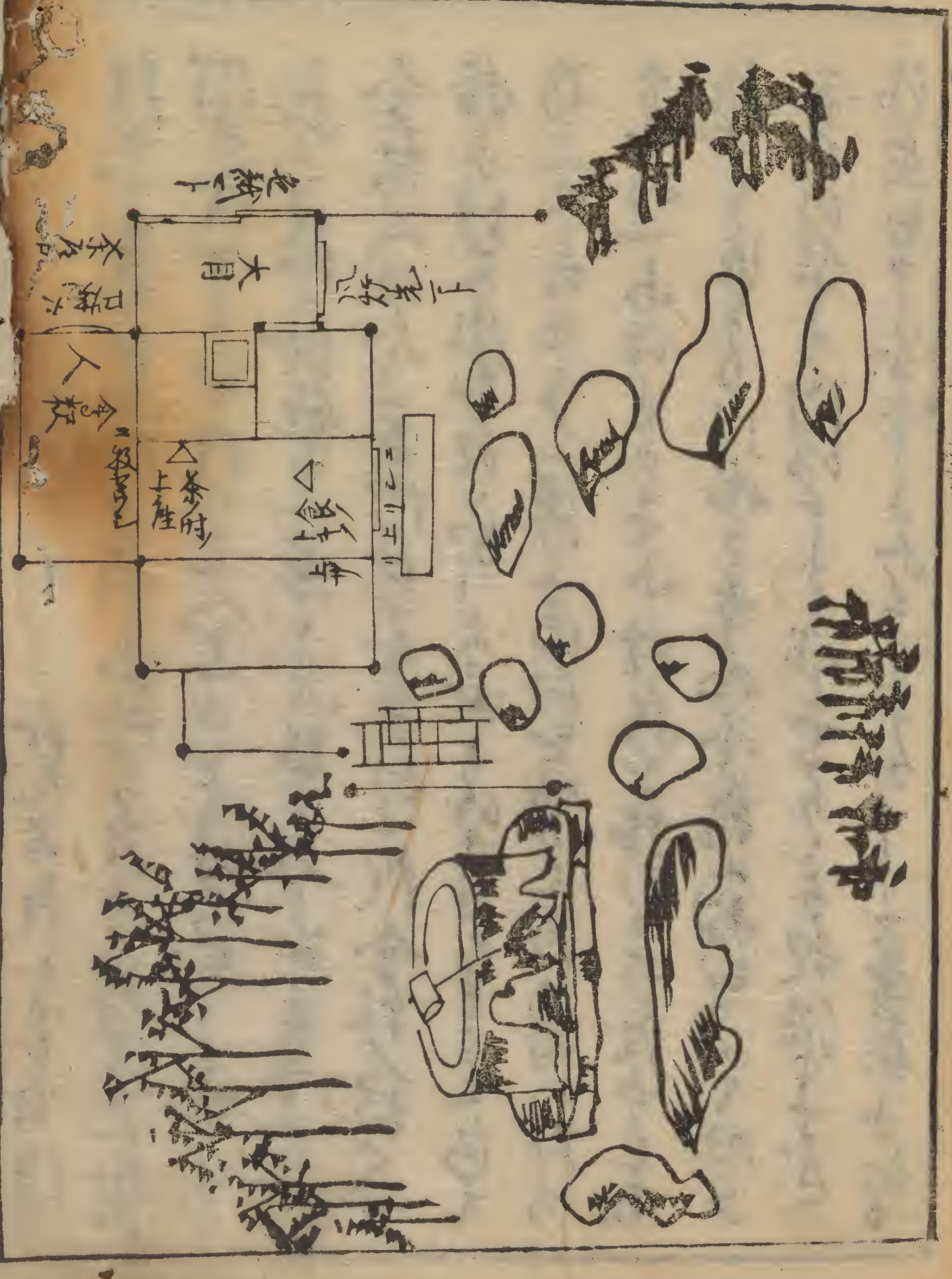
七六





新木

新木













此後、角合の、此等、一、半、右、左、  
よ、角合、合、て、つ、も、三、大、右、左、  
此、合、て、ハ、

一、十、半、ハ、半、ハ、半、ハ、半、ハ、  
一、半、ハ、半、ハ、半、ハ、半、ハ、  
一、盆、ハ、半、ハ、半、ハ、半、ハ、  
一、天、月、建、盛、天、月、  
一、天、月、建、盛、天、月、  
一、天、月、建、盛、天、月、  
一、天、月、建、盛、天、月、

一、座、ハ、花、ハ、入、入、入、入、  
一、座、ハ、花、ハ、入、入、入、入、  
一、座、ハ、花、ハ、入、入、入、入、  
一、座、ハ、花、ハ、入、入、入、入、

一、座、ハ、花、ハ、入、入、入、入、  
一、座、ハ、花、ハ、入、入、入、入、  
一、座、ハ、花、ハ、入、入、入、入、  
一、座、ハ、花、ハ、入、入、入、入、







小口茶ハ濃茶入る時此ひやくうは持せく迄  
小壺茶入れ茶をくむくすくあるを親しむと  
云細ちくくくくすくすく時茶碗一盞くく  
たのき一がく持茶碗はくくあるとて  
一茶碗茶あき茶碗と持人きき遣ふ茶碗は色  
とくくくくくくくくくくくくくくくく  
とちくくくくくくくくくくくくくくくく

一茶通茶碗茶あきくくくくくくくくくく  
サ式すくくくくくくくくくくくくくくくく  
入くくくくくくくくくくくくくくくく

一茶わくくくくくくくくくくくくくくくく  
ハおわくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
茶と極くくくくくくくくくくくくくくく  
一茶通くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
茶碗茶あき茶碗と持人きき遣ふ茶碗は色  
とくくくくくくくくくくくくくくくく  
とちくくくくくくくくくくくくくくくく



一茶入は茶碗とあつたりハ茶碗は茶碗とくく茶を  
いへばさうして茶入をて茶と茶はさうして  
茶く二茶と先師茶よりなり

一蓋を茶碗と足は茶碗と茶を茶と茶はさうして  
茶をさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして

一茶碗は茶碗と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして

一茶碗は茶碗と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして

一茶入は茶碗と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして

一茶碗は茶碗と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして  
茶はさうして茶と茶はさうして茶と茶はさうして



此書外為時安之抄本一冊也終

三

一、此茶を合ふハ枚ありニシテ茶合一日也  
中、以切ニ茶を合ふハ中ナリニ又字よエテ  
入る事也

一、事の上の目的をハ向は方ニ、目的と付く節に入  
志中にある極より行くべし

一中以切ニ条約の如くハ上志一又条約ニ  
一茶入此条約と云ハ条約の如くと外へて云

中次此蓋ハ刻蓋ハ九中次此蓋ハ如き蓋ニ成  
 一歩と指ハハ九中次此蓋ハ如き蓋ニ成  
 一歩と指ハハ九中次此蓋ハ如き蓋ニ成

一中次<sup>ハナハチ</sup>切<sup>キ</sup>と指<sup>サス</sup>ふハ指<sup>サス</sup>と云<sup>イハ</sup>ふて一文字<sup>イツモンジ</sup>ニ指<sup>サス</sup>也

一肩倒れ歎くそこのやど八指と云ふ文字の妙

一 又 嫩 尻 脹 茄子 此 類 八 指 亨 心 應 ( へ ) け ぐ 指

一 此指此蓋不全此蓋つちて此置極目よりさ八様と

生物此類ハ以テ草ハ一向テ本草此類ハ根ヲ有ル

丁々置不<sub>レ</sub>此蓋<sub>ハ</sub>亭<sub>ニ</sub>此<sub>ノ</sub>方<sub>ニ</sub>右<sub>ニ</sub>此<sub>ノ</sub>方<sub>ニ</sub>一<sub>ニ</sub>如<sub>レ</sub>極<sub>ニ</sub>

一、系入此録中、其のかるま、徒をある

て、  
中  
新  
と  
系  
印  
を  
久  
加  
と  
入  
サ  
子  
に  
て  
も  
荒  
の  
足  
病  
を  
全  
く  
治  
癒  
す  
べ  
し  
と  
い  
ふ  
は  
大  
事  
な  
事  
で  
あ  
る  
。

中  
信  
子  
進  
之  
た  
あ  
り  
て  
る

入王業哭ハ悲ハ喜ハ月ハ皇ハ王ハ上ハ公ハ

卷之五



包極口傳小茶入を慌巾に包みし何れも  
帛は包ぐ時とまどし猶も次す

一 茶を此風杯に銀と一方と下るる茶は此

一 茶は此風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 茶は此風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 風杯に水指れが大方のうー 風杯に茶を

一 風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 茶は此風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 茶は此風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 大海の海を小成茶入に長々早きハたれもの

中へ底と付く五つ指る指也

一 和茶並點れ事 和茶ハ茶をハるる茶は此

一 つけて茶をハるる茶は此風杯に

一 極ハ茶をハるる茶は此風杯に

一 茶は此風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 茶は此風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 茶は此風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 茶は此風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 茶は此風杯に茶をハるる茶は此風杯に

一 茶は此風杯に茶をハるる茶は此風杯に



茶

一 茶の茶は悦中をくく付をちみ何う

一 茶の茶は悦中をくく付をちみ何う

一 茶の茶は悦中をくく付をちみ何う

一 茶の茶は悦中をくく付をちみ何う

一 或人此物に秀吉は諸大名方へ茶をくく名物

一 或人此物に秀吉は諸大名方へ茶をくく名物

一 或人此物に秀吉は諸大名方へ茶をくく名物

一 或人此物に秀吉は諸大名方へ茶をくく名物

一 或人此物に秀吉は諸大名方へ茶をくく名物

一 或人此物に秀吉は諸大名方へ茶をくく名物

大目より茶をくく口切をくくお侍は海をくく

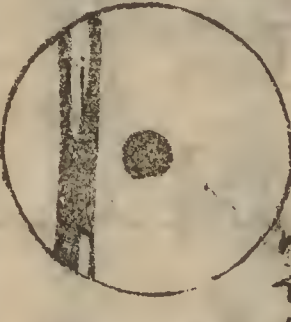
大目より茶をくく口切をくくお侍は海をくく

大目より茶をくく口切をくくお侍は海をくく

大目より茶をくく口切をくくお侍は海をくく

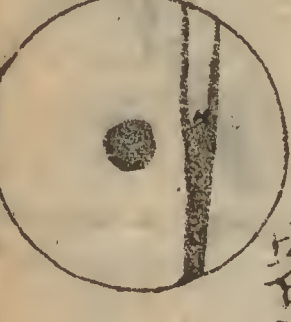
茶入茶蓋此習

客之方



茶入此茶は一名茶蓋茶と何うくく茶蓋

客之方

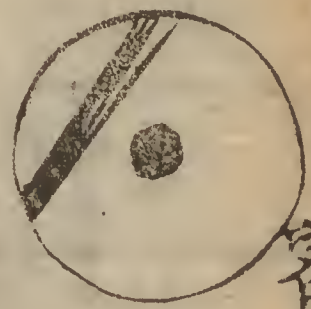


茶入茶蓋此習

茶入茶蓋此習

茶入茶蓋此習





客之方

茶入多くあるは、何れも、茶入ハ、茶  
と向ふて、茶は、茶入（す）て、茶

一字、凡若、此の、時紅の、茶の、惟、を、著、ち、又、紅  
服、紗、を、用、を、た、る、半、何、と、是、利、は、好、う、茶  
一、飯、銅、茶、入、ハ、茶、牙、ハ、平、蓋、の、中、と、銀、此  
金、物、と、銀、具、テ、ウ、ツ、カ、ヒ、す、り、と、蓋、此、茶、入、は、口、付、り、と

# 許之大事

一、炉、茶、子、大、盆、小、盆、唐、物、之、茶、入

一、炉、茶、子、大、之、中、桶、水、滴、茶、入、竹、茶、碗

一、炉、茶、子、釣、瓶、沙、子、束、之、茶、紙

一、炉、茶、子、重、茶、碗、油、桶、茶、入

一、炉、茶、子、論、儀、も、茶、長、緒、舊、言、答

一、炉、茶、子、野、良、點、唐、物、九、壺、茶、入、下、版、舊、言、答

一、炉、茶、子、作、昂、點、唐、物、飯、銅、茶、入、中、版、舊、言、答

一、炉、茶、子、大、盆、袋、天、目、茶、入、上、版、舊、言、答

一、炉、茶、子、唐、物、中、縮、盆、點、茶、天、目、隱、架、蓋、盆

一、炉、茶、子、唐、物、中、縮、盆、點、茶、天、目、隱、架、蓋、盆



一燈童子各物茶入弦付簍言各側隱蓋置  
一燈童子大盒大海長緒落茶點天目之紙莊  
一燈童子大盒茶天目茶碗二眼點  
一燈童子兩漢茶入盒簍言各之大事  
一御成盒點茶松木盒之大事  
一野然盒點  
一燈童子兩茶天目枕屋香爐蓋置  
右之茶之大事之茶之大事之大事

印可之大事

一葵之花之大事

一安石榴花之大事

一泊船花之大事

一薙花之大事

一客死無冬時心得之大事

一鉦喚鐘之抄極心得之大事

一貴人湯水上極之大事

一茶入之油氣及之大事

一御成之時平水鉢置極之大事

一茶室時懸掛物之大事



一 帶人市茶碗點之大事

一 茶入盆床莊之大事

一 薄茶之大事

一 壺茶之大事

一 茶入之蓋内張之大事

一 茶入依成家之大事

一 主人持人數寄屋之大事

一 三ツ之取合之大事

一 食後茶之湯之大事

一 不時之茶之湯之大事

一 朝顔之茶之湯之大事

一 香之茶之湯之大事

一 獨客之茶之湯之大事

一 月見之茶之湯之大事

一 初雪之茶之湯之大事

一 七字之大事

一 毒味噌之大事

以上

右評 此茶子十七ヶ条之記 下可之大事

亦八ヶ条之記 八ヶ利休云古織云小遠云氏

茶碗之記 知の極秘の秘記







多し故に... 洛陽の至理のありき...  
あまの道ムヨのうみよましくホカ介つと... 師シ又ハ  
介シよて止マミ代又師シ此膝シウトよてハ年  
れ春秋と... 未分  
よて止ニム如此ニ次ニすた... 事のことと右記  
又此母シモテれと... 未半タハニま...  
及ツつと... 進タウ人ニに... 予ニ  
きう勢も... 一タヒ反ヒ字ナな  
ら... 予ニ師シの事... 愚ホト経ナ石  
あふけ... 頼ヨキ能ナ師シよ我  
と... 思ヨた... 故

予ニう字知のほ... 梓アサは余トス右の心故...  
又... 國キカニ方ホレク... 人...  
有ま板... 予ニう... 一... 口...

洛陽之隱士

遠藤元閑敬白



*[Faint, illegible handwritten text on the left page]*

*[Faint, illegible handwritten text on the right page]*

Handwritten text in the bottom right corner, possibly a signature or date.



